

リハビリテーション学部 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
2	99	日常生活活動学

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd14					
			●								
科目名	日常生活活動学				単位認定者	小林武史 海藤公太郎		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	30	%
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	本科目では、日常生活活動の概念と範囲を理解し、正常な日常生活活動を理解した上で、動作の獲得方法や介助・支援の方法について学ぶ。本講義では、FIM（Functional Independence Measure）やBI（Barthel Index）などの標準化されたADL評価や個々の評価、介助法やポジショニング、ADLを支援する機器としての福祉用具、歩行補助具、車いすの構造と周辺用具（クッション、移乗補助器具）などの基本的な知識について学修する。										
到達目標	1. 日常生活活動学（ADL）の概念や範囲、ADLと生活の質（QOL）の関係性を理解することができる。 2. 標準化された評価（FIMやBI）の採点基準を理解し、ある程度の助言下で利用することができる。 3. ADLを支援する機器や環境についての視野を広げることができる。										
学修者への期待等	・対象者の日常生活を改善する事は、生活の質を高める一つの手段である事を理解してほしい。 ・日常生活活動学は、他の科目と非常に関連性のある科目である。他科目との関連性を考慮した予習・復習を期待したい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当	
1	ADLの概念や範囲、ADLとQOLの関係性				教科書P1～P19を読んでまとめる			30	30	宮城新吾	
2	ADLと障害（ICIDHとICF）				教科書P21～P36を読んでまとめる			30	30	宮城新吾	
3	できるADL（BI）の評価 IADL評価とその重要性				教科書P37～P43を読んでまとめる			30	30	只木正和	
4	しているADL（FIMセルフケア・排泄管理・移乗）の評価				教科書P45～P54のセルフケア・排泄管理・移乗の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和	
5	しているADL（FIM移動・コミュニケーション・社会的認知）の評価とその他ADL評価法				教科書P55～P69のFIMの部分を読んでまとめる			30	30	只木正和	
6	ADLの運動学的分析に必要なバイオメカニクス				教科書P71～P83の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和	
7	姿勢の名称と姿勢分析のポイントと介入				教科書P85～P91の基本動作1の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎	
8	ADLを支援する機器（食事・整容・更衣・入浴動作関連）				教科書P93～P104の基本動作2の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎	
9	ADLを支援する機器（トイレ・起居・移乗動作関連）				教科書P107～P104の基本動作3の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和	
10	歩行の重要性と歩行補助具の名称と役割				教科書P107～P114の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和	
11	車いす（名称、分類、基本寸法、周辺用具）				車いすについて調べる（30分程度）			30	30	小林武史	
12	福祉用具支給制度とその他支援機器（ECS、意思伝達装置、介護ロボットなど）				教科書P125～P146のセルフケア、ADLを支援する機器の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎	
13	生活環境とADL、QOLの関係性				教科書P149～P156の住環境整備の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎	
14	生活環境と法的諸制度				教科書P157～P173の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30	小林武史	
15	生活環境としての住宅と住宅改修				教科書P174～P184の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30	小林武史	
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）										
教科書	南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版 ISBN：978-4-524-24578-9										
参考文献											
備考	授業内課題は、次の授業時に返却・解説する。										

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、経験に基づく実践的な授業を行います。